

発行

山形大学農学部鶴窓会

発行日 2014年12月10日

第21号

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
山形大学農学部内

TEL・FAX 0235-28-2897

ホームページ kakusokai.net

E-mail kakusokai@kdp.biglobe.ne.jp

鶴窓会だより

題字：元会長 佐藤 輝康氏 書



美しく紅葉した南京はげの前で

山形大学農学部鶴窓会

会長 佐藤 晨一

(昭和41年農学科卒)

鶴窓会活動の 発展を期して

会員の皆様には日頃より鶴窓会に格別のご高配を賜り感謝申し上げます。また、会員の各職域や地域におけるご活躍に衷心より敬意を表します。

さて、このたび会報をお手元にお届けするにあたり、本会の活動の意義とその発展について考えてみたいと思います。これまでは各支部活動と本部との連携などの活動について触れてきました。そして3年後の平成29年には本農学部創立70周

年を迎えるにあたり学部とともに記念事業の推進を図ろうとしております。既に学部支援という本会の目的に沿って作業部会等が立ち上がっているところですが、また、会員相互の連携と親睦についても会員名簿発刊にはじまり各支部総会や同期会・同級会への支援という形で貢献してまいりました。いまや鶴窓会は会員の母校に対する思いやその発展に欠けてはならない組織となっております。

ところが、本年5月の代議員会では本誌掲載のとおり平成25年度決算書で一般会費収入36万円減を報告しなければならなくなり、このことが当然26年度事業予算縮小となり種々の議論となりました。会費収入の減少は本会報のページ数減や学部研究支援費及び支部強化費削減になったほか、鶴窓会活動の全般にわたりました。各項目についてその対応策では各代議員から活発なご意見をいただき、例えば10年以上会費未入会員に対しては会報の送付中止や役員数の削減、山形県内支部の統合など鶴窓会の発展からすればいざいざも厳しい現実を突きつけられた格好となりました。一方、一般会費収入に対するご意見もいただき、一般会費納入率を改善する方策として、各支部の

役割や納入方法に費用対効果の課題もあるがコンビニエンスストアを利用することが提案されました。また、事務局側からは前受け金である20年会費(特別会計)からの単年度繰入金についても協議することの提案がありました。いずれも鶴窓会活動の根幹をなす重要項目であると認識しております。

私は北海道支部長の助言もあり、この発端となった一般会費収入減の原因について考えてみました。事務局の資料によると、一般会費の納入率は会報をお届けしている会員のうち卒業年次の古い順に高く、昭和20年から40年代は50%台かそれ以上となっており、昭和50年代以降は30%台に下がり、20年会費が始まる前の平成年代に至っては20%から10%台にまで低下しているのが現状であります。さらに1歩踏み込んで、これまで事務局運用として過年度会費未入分に納入依頼をしてきました。今回これに該当する会員からの過年度分未入の解消が進み、収入減となったことが推察されました。このままだと次年度も更なる収入減が危惧されるので、とくに未入率の高い高額未入となっている若年層から納入しやすい、また20年会費納入者を除く全ての会員が年

会費2,000円に統一した払込書にする提案を事務局役員会の了承をいただき実行しているところです。まず同期のお仲間にお声掛けしながら2,000円納入のスタートの年にしていきたいと思っております。

上記のことは事務局の運用方針で可能であるし、なによりも幅広く多くの会員の支持を得て鶴窓会がより発展することを願ったものです。これらは一種の賭けになりますが、会員一人ひとりのご理解をいただき、伸びやかな運営ができますことを切にお願い申し上げます。なお、請求に関する管理や「鶴窓会だより」発送にかかる経費も削減されることを申し添えます。さらに今回の「鶴窓会だより」からは関連企業などからの広告収入を図る企画も立ち上げ、ご覧のとおりとなったところです。また、会費納入がコンビニエンスストアでも可能になりましたのでご活用をお願い申し上げます。

今回は代議員会の模様を報告しながら、将来に向けては地方の活力や創生が政治課題となっている昨今、農業県である山形県にとり、地域資源としてのわが農学部の役割を皆様と一緒に考えていければと思っております。

(平成26年9月23日記)

目次

会長挨拶	鶴窓会会長 佐藤 晨一(昭和41年卒)	1			
特集「啓明寮の今昔」		3			
篠原 斉四郎(昭和47年卒)	3	佐藤 愛子	4	草村 誠(平成16年卒)	5
和田 肇(平成18年卒)	6	遠藤 文子(平成21年修)	8		
退職に寄せて		10			
菊間 満	10	吉田 宣夫	10		
着任の挨拶		12			
藤井 秀人	12	松山 裕城	13		
学生研究支援事業について	鶴窓会副会長 齋藤 博行(昭和45年卒)	14			
第3回山形大学「ビーチサッカー大会」の開催	校友会理事・鶴窓会副会長 齋藤 博行(昭和45年卒)	14			
会員の声		15			
山瀆 敏一(昭和29年卒)	15	伊藤 秀夫(昭和34年卒)	15	富樫 二郎(昭和36年卒)	16
林 周二(昭和41年卒)	17	白鳥 峻(昭和41年卒)	17	寺島 豊明(昭和44年卒)	18
粟野 省三(昭和44年卒)	19	富樫 千之(昭和51年卒)	20	鏡 信男(昭和53年卒)	20
中井 誠一(昭和53年卒)	21	日下 喜博(昭和54年卒)	22	阿部 利徳(昭和55年卒)	22
寺山 正直(昭和55年卒)	24	森谷 康市(昭和55年卒)	24	高橋 幸治(昭和58年卒)	25
押井 秀勝(昭和62年卒)	26	宮野 法近(平成6年卒)	26	渡沢 寿(平成9年卒)	27
松下 みどり(平成12年卒)	27	森 洋佑(平成14年卒)	28	金本 朋洋(平成17年卒)	28
菅原 暢文(平成25年卒)	29				
在学生の声		30			
菊池 芽衣子	30	古澤 由実子	30	佐藤 裕太	31
留学生の声		32			
ムタバジミンク アイメ	32				
支部報告		33			
北海道支部 「月山会」会長 菅原 義昭(昭和40年卒)	33				
庄内支部 副支部長 佐久間 憲生(昭和45年卒)	33				
最上支部 支部長 岩井 利夫(昭和45年卒)	34				
村山支部 支部長 粟野 省三(昭和44年卒)	34				
置賜支部 事務局長 石川 庄一(昭和52年卒)	35				
宮城県支部 副支部長 及川 浩好(昭和53年卒)	35				
関東支部 支部幹事 篠原 斉四郎(昭和47年卒)	36				
関西支部 関西支部事務局	36				
鶴窓会事務局からのお知らせ		37			
平成25年度事業並びに活動報告	37	平成26年度代議員会報告	38		
平成26年度事業計画	39	人事異動	39		
追悼		40			
若松 幸夫(昭和25年卒)	40				
訃報		40			
平成25年度決算・特別会計積立金決算、平成26年度予算・特別会計積立金予算		41			
幹事及び代議員名簿	42	「鶴窓会だより第20号」発送後の会員の声	42		
平成25年度就職状況		43			
著書の紹介		44			
木田 元(昭和25年卒)	44	西澤 隆	44		
編集後記、編集委員		44			

特集 「啓明寮の今昔」

朋有り遠方より
来たりけり亦楽しからずや

埼玉県在住

篠原 斉四郎

(昭和47年林学科卒)



昭和44年(一九六九)10月に啓明寮入寮時は52室に104人の先輩、同僚がいて、45年の星霜を経ても懐かしい顔が思い出される。山形での教養部時代は新設の学寮に入寮したが十分な食事がとれなくいつも腹を空かせていた。それが啓明寮では3食とも美味しく気さくな寮母の心遣い、料理の工夫があつて食事が待ち遠しかった。

当時はまだ学生運動の余韻が残り強者が少なからずいて、寮祭では三里塚闘争などの映画をNHKから映写機を借りて資格があつた自分が上映したこともあつた。打ち上げは全寮生による夕食会で、僅かな日本酒に酔いしれてたちまち飲めや歌えやの大宴会になつたのは東北人の心意気か。

内平野の夜明けを俯瞰する荘厳な一時を体験した。騒がしい寮の夜が更けてもなお、懸命に勉学にいそしむ寮生が多数いて、大企業への就職、公務員上級職合格、大学院進学など多彩な巣立ちがあつたことは賞賛すべき。しかし、会うは別れの始めともいい、第二の故郷を後ろ髪を引かれる思いで去つてから、当時の寮生に再会する機会が極めて限られてきたことに一層の寂しさを感じるこの頃である。



啓明寮の唯一の楽しみはテレビ鑑賞

私と啓明寮

元啓明寮10号室

草村 誠

(平成16年生物生産学科卒)

啓明!!寮祭!!啓明!!寮祭!!祭りだワッショイ!神輿だワッショイ!

大学の学祭が終わった頃、もう一つの祭りが動き出します。そうです。あの伝統行事が幕を開けるのです。

私が大学2年から卒業までの3年間を過ごした鶴岡市の啓明寮では、毎年11月になると寮の年中行事のひとつである【啓明寮祭】が3日間ほど行われていました。

寮祭を開催するに当たり、実行委員会を中心にパンフレットを作成して広告主(ひと枠2千円程度)を募集します。その協賛金を元手に寮の玄関前で出店を出したり、記念の手拭いを作ったり、食堂に簡易ステージを作りバンドが演奏したりと、今流行のフェスの先駆けのような行事でした。

啓明寮祭でのメインイベ



啓明寮祭にて 上段筆者



新装になった啓明寮(平成25年3月)

ントは、なんとと言っても祭の最終日に寮生の有志が担ぐ神輿のパレードです。

毎年、寮生は10月ごろから廃材や寮の周囲に自生する竹で神輿を自作します。

晩秋の寒い夜、禪一枚の姿で神輿を担いで寮をスタートし、大学構内を回った後に鶴岡市内を練り歩き、道中では寮祭に協賛頂いた商店や個人宅を訪問して、お礼にこれまた自作の紅白餅や手拭いをお渡しし、商売繁盛を祈念します。最後は鶴岡城址のお堀に飛び込んで体を清め、寮に戻ってみんなで大風呂で暖をとった後、啓明寮祭実行委員長から祭の終わりが告げられます。

右も左も分からない在寮一年目の私は、初めての紅白餅作り、初めての掛け声、初めての禪に戸惑いを隠せず：どうやらとんでもない所に紛れ込んでしまったと感じざるを得ませんでした。それが二年目になると不思議なもので、今年は一休が起ころのか？神輿はどこか？というワクワクした気が



持ちのほうが大きくなっていったのは私だけではないと思います。

寮祭を終えると在寮生同士の絆が深まり、それまであまり話す機会のなかった先輩や後輩とも打ち解けて仲間になれたことが、私にとって大学時代に得た大きな財産のひとつになりました。

啓明寮だけでなく、山形大学が、そして鶴岡市若葉町界隈がざわついた思い出

の神輿パレードが新しい啓明寮の完成とともに無くなってしまう

たと聞いた時、とても寂しく残念な気持ちになりました。しかし、「新」啓明寮でも、私たちの過ごし

た頃と同じように多くの山大生が集い、ともに学び、ともに生活しながら仲間の絆を深め、充

実した日々を過ごしていくのでしよう。後輩たちには、神輿パレードに負けないくらい衝撃的な？新しい伝統行事を生み出してください。私を期待したいと思います。

山大ワッショイ！！
啓明ワッショイ！！

現代に必要なものが、「啓明寮」にはある

(平成18年生物環境学科卒)

和田 肇

私が山形大学農学部の啓明寮に入寮したのは、平成16年、大学3年の秋だった。そのような中途半端な時期に入寮した理由は、啓明寮に魅力を感じたからだ。私が学生の頃は、大学2年生になってから鶴岡キャンパスに異動するシステムで、最初は一般的なアパートで生活していた。その大学生活の中で、知り合いの啓明寮生に寮の話を書く機会があった。その話からは、

